

【取組内容①】 動画の映像をもとに運動の取り組み方を工夫する活動

中学校第1学年 保健体育

【単元名】 武道（剣道）

【使用したアプリ】 ・Google Classroom ・Jamboard
・カメラ機能（写真・動画）

【活用のポイント】



「視覚化」(見る)



「保存」(残す)



「試行錯誤」(何度でも)

単元で目指す子どもの姿

- ・相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防することができる。
- ・自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。
- ・自己の課題について考えたことを他者に伝えることができる。

単元前の子どもの姿

- ・剣道は、中学校で初めて学習する内容であり、相手の動きに応じることについては、攻防のように駆け引きがあるような運動はしていない。
- ・自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することについては、水泳の授業で、他者からのアドバイスと自分の動きのイメージを照らし合わせ解決する経験をしている。

ICTの効果的な活用

- ・手本動画を共有し、いつでも見たいときに確認することができるようにしておく。

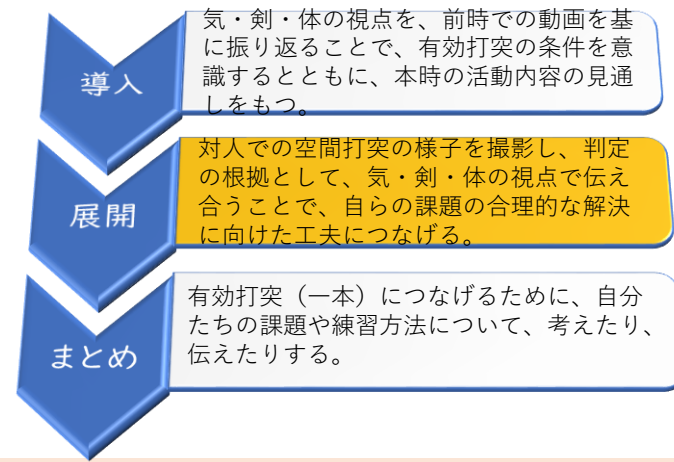
- ・自分の動きを動画で録画しスロー再生や、手本動画との比較ができるようにする。

- ・課題について考えたことを他者に伝える根拠として動画を活用する。

【単元計画】

時	主な学習活動
1	オリエンテーションで剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方について学ぶ。
2	構えからの基本的な竹刀操作を身に付ける。
3	スムーズな足さばき、正確な正面素振りを身に付ける。
4	有効打突（一本）の条件を見つける。
5	対人での素振りを通して間合いを理解する。
6	気・剣・体の視点で対人での空間打突を行う。
7(本時)	相互に課題を伝え合い、有効打突（一本）につながる面を練習する。
8	単元の振り返りを行う。

【授業の実際】



【成果と課題】

- 動画を録画し気・剣・体の視点で確認することが、課題発見場面や課題解決場面での根拠として有効であった。
- 動画を指し示すことで、「ものうちが面に届いていて、『剣』ができています。」や「後ろ足がべったりついているから『体』ができていい。」など、既習の知識を用いて、具体的に説明する手助けとなった。
- 動画を見なくても、自らの考えを他者に自信を持って伝えることができている生徒もいた。単元を通して気・剣・体の視点をもとにICT端末を活用してきた成果と考える。